

晴れの日に寄せて

本校で活躍された先生の思い出や激励などが満載

念頭に検討しました。新たな節目を迎えた本日、肩の重荷が下りる気がします。一層の発展と松健健児のご活躍を祈念申し上げます。

「至誠力行」に想う

創立八十周年を心よりお喜び申し上げます。

平成十三年四月から三年間の勤務は充実し、併せて私にとって県立高校の教職員としての三十八年間の最後の職場であり、強い思い入れと感慨深いものがあります。

赴任時に、本校の現状や同窓生の活躍などの情報をいただき、地区の中心校としての重責を感じましたが、諸先輩の方々に、本校の関係者の皆様のご支援により私試でましました。深く感謝申し上げます。

過去を支えられ、温故知新未来をくる(日々新)の意気度三年間を過ごしました。校長には校訓の扁額があり、至誠力行の扁額を見て、人間は自ら育つものであり、教育の原点の一端が示されていると思いました。

二十一世紀、聖域なき改革は学校教育にも例外なく進められ、平成十四年度には完全学校五日制の実施、新指導要領の実施に伴う教育課程の編成等、息をつく間もない日々でした。

平成十五年度は理科の設置、周年記念の準備等がありました。同窓会、PTA、学

きめなければ奇跡は起こる。私の離れの言葉ですが、努力は必ず報われます。常に前向きにチャレンジしてください。この輝かしい伝統の継承と更なる発展が、今後の能高の使命とされます。同窓諸氏のますますの活躍と母校の発展を心からお祈りいたします。

山岳部の思い出

前教頭 成田 幸広

能代高等学校八十周年を心からお祝い申し上げます。私は、七十周年を迎えた平成七年より十年間能代高校でお世話になり、多くのことを学ばせていただきました。一番の思い出はやはり山岳部です。

赴任した当初、山岳部は少ない部員で地道な活動をしていました。当時二年生の麻木と能登が、部員数を確保して強い山岳部しようとしてくれました。部員に揃いの真つ赤なジャージを着用させ大きなバックを持たせ、部活動紹介ではスロージの上からザイルで降りてきたり、シユラフを着て辛虫をまねたり、浴衣姿でカマキリをやったりとバリエーションを披露、そして二人の絆をアピールが新入生の心を捉え、一年後には三十五名を超える部員の大所帯にまで変わりました。山でバテないために、毎日の練習をしっかりと、練習言葉を毎週の激しい練習を重ね、毎週の激しい練習を重ね、山に入り、瞬間に全県でも

した。そして、三年後の平成十年には金平、平川、阿部、神馬が、先輩が果たせなかった念願のインターハイに出場。三位入賞を勝ち取りました。表彰式後、うれし涙の部員と秋元校長先生と手をとりあつて喜んだことが最高の思い出です。

本校で活躍された先生の思い出や激励などが満載

最近、結婚披露宴などで当時の部員と再会する機会が多くなってきました。山岳部時代の話題で盛り上がり、いざいざと今までの私にとって至福の時間になっており、このような素晴らしい思い出を与えてくれた能代高校に感謝致しております。

復文指導のこと

佐京 清誠

能代高校が県教育委員会の学習指導法研究会の指定校として学習指導法改善に取り組み、その成果を公開したことがあり、昭和五十三・五十四年度にかけてのことだった。英語科は、読解力を深めるための指導法の一つとして、教科書の既習部分の日本語を讀んで原文を復元する作業を、一、二年次に実施していた。提唱者は熊谷公妙先生であつた。英文復元学習の効果的指導として、研究内容の柱の一つに据え、五十四年度入学生から指導計画の実戦が始まりました。

復文の分量は、二・三パラグラフで十・十五センチタテである。一年生の平均的なタテ(四十八センチ)を例にとり、復文テキストは年間二十六回実施できた。八割以上復元

い場合があつた。予習アリンを活用していないので、個々の英文の理解が十分で正しい音読練習ができていないことがわかつた。ひとまとまりの事実や思想・感情を表現する目的でえらびめかれた語句や構文が、文脈のなかで生きてはたらくまで追体験すること、暗記力にのみ依存し過ぎた結果と考えられる。半分以上復元出来なければ二回まで原則追試が課されたが、熊谷先生の理詰めの妥協を許さない厳しい指導姿勢が学年に浸透し、生徒もよく頑張り私たちが期待に応えてくれた。当時はお互い必死であつた。昭和五十七年二月の卒業生たちと懐かし思い出として強く心に残っている。

近況報告

高橋 智子

六月二十三日から一日間、ギリシアとオーストラリアに滞在しました。テロには遭わず幸運だったけれど例の地下鉄や、隣国でバスに乗ってウイーン・ロンドンに行ったり、ロンドンを乗り継いだりしました。ナショナルギャラリーの数々の名画に感動し、それ以上にこれらの国立の美術館がすべて無料とあることに感動しました。すばらしい芸術をどんな人にも開放するというアラブ政権の政策です。

ウィーンの日本人学校では茶道講座を開きました。講師の私が着物姿で駅やスパーを歩くとき多くの人の目を引

れたので大荷物を抱えて行った甲斐がありました。ウィーンの地下鉄の改札には駅員が一人おらず改札機もありません。車中には動物も自転車も一緒に乗り込め、便利で快適です。

明日を担う松健健児

神馬 幸子

校歌の作曲者、岡野貞氏の出身地鳥取を訪ねる機会がありました。彼は、ふるさとを許さない厳しい指導姿勢が学年に浸透し、生徒もよく頑張り私たちが期待に応えてくれた。当時はお互い必死であつた。昭和五十七年二月の卒業生たちと懐かし思い出として強く心に残っている。

この三月の卒業生が、入学した時、「能代高校生として何が必要なのか、何を考えねばならぬのか。将来必ずや、社会のリーダーとして期待される活躍するであろうこと。単に学力を身に付けるだけではなく、その品性も磨かねばならない」と話しました。

急速にかつ高度に発展してきた物質文明は、経済的にも人道的にも、極めて貧弱な社会を作り出し、日本のみならず、国際社会も混乱の様相を呈しています。

このような時代こそ、松健健児に求められるものは明

た伝統を受け継ぎ、八十周年という時の刻みに思いをいたし、自分自身を磨き、さらに学びの道に精進してほしいと思います。

心のまえ

菊池 二三

能代高校創立八十周年おめでとうございます。創立以来、「至誠力行」の校訓のもと、文武両道を目標に皆々と伝統を築き上げてきた能代高校が母校であることを、私は誇りに思う。心にも有り難く感じ、心の支えとなつております。

昭和五十年に卒業した私は、卒業三十年目を迎えるにあたり、今夏十周年に同窓会を開きました。それぞれ住環境や仕事も異なるのですが、同期生としての立場は皆一緒で、何のへだたりもなく思い出話に花を咲かせ、旧交を温めることができました。そして友と語り合ううちに、忘れかけていた幽かな記憶が蘇ってくるのです。そこには、ちよつと顔が赤面するような、青々とした、一途で、背一杯生きている高校時代の姿があるのです。

しばし心が癒され、明日への活力を友からもらうことができたと感じるにつけて、能代高校で過ごした日々と、ともに学び合った仲間の有り難さをしみじみと思う機会になったのだ。

今、社会は大きな変革の直中であつて、高校生を取り巻く状況も厳しいものがあります。しかし、いつの時代においても、若者が社会に矛盾を感じるのである、厳しさを乗り越え、先輩たちは伝統を築き上げてきたのです。

在校生たちは、能代高校に自分がある意味を改めて問い直し、貴重な三年間を有意義に過ごしてほしいと思います。

自分自身はシアトルのワシントン大学にいます。二・三ヶ月間勉強して、授業がとてマッドで、宿題があまり毎晩一・二時まで勉強する。勉強をくり返してはいる。

ジョルティー

思い出を胸に

「ひなびた」ブルーメンハートはあこがれ

先日ジョルティー君の送別会が行われた。彼も母国ハンガリーへ帰り、自分の「ジョルティー」をしよう。九月になったら、学校が始まるのでがんばりたい。そして日本での思い出、国帰ってからしたいことについて聞いてみた。

日本での一番の思い出は、修学旅行だ。京都、奈良、そして大阪。その中でも、京都は古き良き日本の風情があふれ、実におもしろかった。夜みんなど話したこともおもしろかった。ほかに、日本の男性は髪型がかっこいい、日本の女性は麗しいと話してくれた。日本の食べ物については、うなぎやラーメン、うどんは好きだが、おにぎりやそばは嫌いという。また日本の学校はヨーロッパの学校より

加賀先生

アメリカへの修行

「難しいことにチャレンジしてみよう」

七月から九月までアメリカにたまたま途中でやめ、自信をなくしてしまうので、がんばって続けてほしい。みんながこれからがんばりたいことは、また可能性があったら、でした。

自分はシアトルのワシントン大学にいます。二・三ヶ月間勉強して、授業がとてマッドで、宿題があまり毎晩一・二時まで勉強する。勉強をくり返してはいる。

「能代での体験は貴重な財産だ」

「難しいことにチャレンジしてみよう」

「能代での体験は貴重な財産だ」

「能代での体験は貴重な財産だ」

